

A 相当成果が上がった B ほぼ目標を達成した C あまり成果が上がらなかった D 目標の半分にも満たなかった

重点課題 重点目標	実態及び今までの指導内容	具体的目標・計画	評価指標	評価		次年度への課題と 今後の改善方策
				活動計画の実施状況 評価指標による達成度	総合 評価	
1 基本的 生活習慣の 確立	(1) 社会生活をしていくうえでのマナー(挨拶・行動)が欠けている生徒も少なからずおり、指導に時間がかかる。	a 交通安全指導の徹底。登校時には校門前交差点での立哨指導を実施。各学期に車体検査を行う。	ア 交通事故ゼロを目指す。	毎朝、清掃活動と共に挨拶運動を実施した。生徒会・バスケットボール部、野球部を中心によくできた。近隣住民の評判も良くなった。この運動を通して、生徒間、生徒と教師間のコミュニケーションが活性化した。	A	他の部など多くの生徒に参加してもらおうことが今後の課題である。
		b 挨拶運動やこえかけの実施。生徒会を中心に、体育部による清掃活動とともに登校時の挨拶運動を実施。また、一日を通して生徒との会話をすすんで行う。	ア 社会生活を送るうえで必要なマナー(挨拶等)が身に付いたか。また、生徒間、生徒と教師間のコミュニケーションが活性化したか。	毎朝、校門前交差点に教師が立ち、交通安全指導を実施することができた。また大きな交通事故も発生していない。車体検査もホームルームを利用して実施できた。	A	大きな事故はなかったが、軽微な接触事故等は発生している。交通安全ゼロに向けてマナーの向上を図りたい。
		c 遅刻指導の徹底。各学期で遅刻早退が10回を2回超えた生徒に対しては、保護者と生徒課長が面談を実施。	ア 昨年度より遅刻者数を減少させる。	月平均の遅刻者数は月によって異なるが、前年度より若干増加した。遅刻届の提出、遅刻指導は徹底できた。	B	来年度は、遅刻指導の面談のあり方や、遅刻・早退カードの導入など改善を図りたい。
		d 毎月1回の服装頭髪指導の徹底。	ア 100%を目指す。	頭髪指導は毎月、徹底して指導することができた。	A	違反者の数が減少するように取り組みたい。
		e ネクタイ(男女)の常時着用を目指す。	ア 100%を目指す。	目標をほぼ達成することができた。	A	さらに指導の徹底をを図りたい。
		f 携帯電話によるトラブルをなくす。ホームルーム活動等で携帯電話使用時のマナーの徹底をはかる。	ア 携帯電話の使用時のマナーが身に付いたか。	携帯電話教室を開催し、携帯電話使用によるトラブル等について指導できた。	B	来年度は携帯電話について新たな規定を設け、指導を図りたい。
	(2) 肥満傾向の生徒の食生活、生活指導についての実態把握や指導が不十分であった。	a 肥満、肥満傾向の生徒の食生活、生活習慣の実態を調査し、全体指導、個々への指導を推進したい	ア 機会をとらえ個人指導の回数を増やし、記録をとる。	本校生徒全体の食習慣の実態調査を実施し、統計をとり学校保健委員会や保健便り等の全体の広報活動に力点をかけた。個人指導は、数人の生徒に機会毎に指導をしているが、顕著な改善はない。	B	検診の再検査率、治療率、予防接種の接種率を上げたい。
	(3) 朝食習慣が確立されていない生徒が少なからずいるので、その必要性について指導している。	a 保健便り・学校保健委員会等の広報活動や個別指導を徹底する。また、アンケート調査を実施する。	ア 朝食習慣が確立されている生徒が、昨年度、4月の調査と比較し、良くなっているか。	今年度は、7月の調査となり、4月の調査と比較すれば1年生は朝食摂取率はやや良くなっているが、2、3年生は、あまり顕著な変化がみられなかった。	B	調査時期と実態をよりはっきりさせる調査の内容を検討したい。
	(4) ロッカーの上や机の上などに物を放置している生徒が見受けられる。	a 各教室をはじめとする、環境の美化を図る	ア ロッカーの上、机の上などに物が皆無か。掲示物などがきちんと整理できているか。	HR担任や教科担任の指導により、片づけるようになっているが、まだ100%ではない。	B	各クラスの美化委員をもっと活用させたい。また、今後も全員が自分の持ち物を放置しないような指導を継続していく。
	(5) 清掃時に自分の分担場所を清掃しない生徒が少数であるが、全員で取り組むように指導している。	a 一人ひとりに清掃の仕方を丁寧に指導し、全員が各担当場所で清掃活動に励むように指導する。	ア 全員が真面目に丁寧に清掃活動に取り組めたか。	教師による根気強い指導により、ほぼ全員が清掃場所には来るようになったが、やり方が雑で不十分である。	B	今後、責任分担を明確にし、丁寧に清掃させる工夫をしたい。
	(6) 生徒の実態は多様化しており、家庭や中学校との連携は必要不可欠である。そこで、家庭と学校・中学校と密な協力体制作りとしてのPTA活動の活性化をはかる。	a PTA総会等の内容を充実し、出席者の増加を図り、学校理解のための機会とする。	ア PTA総会の内容は充実向上したか。PTA総会時の保護者来校を家庭との連携のために利用できたか。	PTA総会時の講演会、家庭教育研修部会などの内容については、保護者からも好評であった。しかしながら、三年生の進路保護者会開催が4月末にあったこともあり、参加者は例年よりも少なかった。	B	内容のさらなる充実と保護者の意見を反映させることができるように、PTA役員を中心に各行事への積極的な関わりをもっていただけるよう工夫する。
	(7) メール等の利用をとおして、生徒間のトラブルが起こることがある。	a 仲間づくりを視点においた人権学習の実施する。	ア 年間5回の人権学習を実施予定。	各学年とも、人権講演会などを含め、年間7回の人権学習を実施することができた。	B	同和問題学習のさらなる充実のため、教材研究の創意工夫を積み重ねたい。
		b 同和問題についての展示を実施する。	ア 年間1回は人権展示を実施予定。	年間3回、同和問題についての人権展示を実施することができた。板高祭、板野町解放文化展、板高文化フェスティバル	A	展示内容のより一層の充実をはかりたい。

重点課題 重点目標	実態及び今までの指導内容	具体的目標・計画	評価指標	評価		次年度への課題と 今後の改善方策	
				活動計画の実施状況 評価指標による達成度	総合 評価		
2 基礎基本を重視した確かな学力の育成	(1)	a	授業公開週間を設けることで授業方法や内容の改善をし、教科の楽しさをわからせる授業展開をする。	授業評価で、70%の生徒が授業に満足したか。	85%の生徒が、「満足」または「まあまあ満足」と回答し、昨年度とほぼ同じ値の良好な結果が得られた。	A	次年度も継続していきたい。
		b	授業の受け方やノートの取り方、予習復習の仕方などのための入門講座を年度当初の1年生に実施する。	新入生を対象に年度当初実施することができたか。	予定通り実施でき、学習への動機付けにもつながった。	A	次年度も継続していきたい。
		c	学校行事を精選し、より多くの年間授業時数を確保する。	単位あたり30時間以上の年間授業時数を確保できたか。	3学年平均で、単位あたり27.8時間の実施時数で、30時間以上には届かなかった。	B	学校行事を精選し、より多くの授業時数を確保したい。
		d	週末課題の実施とテスト前の自主学習時間(チャレンジタイム)の実施により、学習時間を確保する。	家庭での学習時間が前年に比べ増加したか。	前年に比べ約10分減少した。	B	次年度は、増加するような方策を考えていきたい。
	(2)	a	生徒対象の科目選択の説明会実施するとともに学年団による科目検討会を開催する。適切な科目選択をさせるとともに、教育課程の改善と充実に努める。	学校評価アンケートで、教育課程の充実度を70%以上にする。	「充実している」または「だいたい充実している」と答えた割合は、教員で70%、生徒で68%、保護者で84%であった。	B	科目選択のガイダンスを充実させると共に、より良い教育課程の編成に努めたい。
		b	新教育課程に向け、学校設定科目他、教育課程の見直しを進める。	基礎科目の設定をはじめ、各教科で新教育課程に向けての原案を作成する。	教育課程・学力向上委員会や教科会を開き、新教育課程の編成に向けて、原案を作成した。	B	大学入試等の動きも配慮しながら、本校に適した新教育課程を編成していきたい。
	(3)	a	生徒の特性や個性に応じた進路指導の充実に努める。	進路情報誌を活用した啓発活動の活性化を図ることができたか。	計画的に進路情報誌を発行して啓発できた。	A	引き続き新鮮な情報提供に努める。
				学年集会やHR活動を充実させ、外部講師を有効に利用することができたか。	就職希望者や公務員希望者に対して外部講師による活動を充実させた。	B	HR活動等での外部講師を有効活用したい。
		b	インターシップの実施による進路意識と学習意欲の向上を図る。	キャリア教育を中核に据えた総合的な学習の時間の再構築ができたか。	インターンシップは有意義に実施できたが、総合的な学習の時間再構築には至らなかった。	B	総合的な学習の時間のプログラム再構築をする。
				年間1回以上のオープンキャンパスへの参加ができたか。	夏期・春期の休業中に全生徒がオープンキャンパスに参加した。	A	引き続き全員のオープンキャンパス参加に努める。
	c	進路ガイダンスを充実させる。	大学や専門学校の講師による模擬授業や年間2回の全校生徒を対象とした進路ガイダンスの実施ができたか。	6月と3月に学年別・内容別のガイダンスを実施した。	A	よりよいガイダンスプログラム構築のために、関係業者・大学等との連携を深める。	
			定期的な生活実態調査の実施と実態に即したクラス単位の指導補助をする。	効果的なタイミングで情報提供できたか。	定期考査前に定期的に実施し、定点観測できた。	A	より視覚化したデータとして提供したい。
	(5)	a	補習への参加率の向上と出席率の維持を図る。	補習登録の複数化と授業内容の学習到達度別開講を実施できたか。	習熟度に応じて各学年二種類の講座を開講して実施した。	A	講座の補習内容が、生徒の実態に応じたものになっているか点検する。
				校外模試の積極的な参加を促す。	年間1回の全員受験の実施ができたか。	10月末に全員受験を実施した。	A
		c	学力向上と進路実現をめざす。	「ステップアップウィーク」の充実を図れたか。	自習プリントを用意する等、工夫ができた。	A	より時間を確保できるようにしたい。
				5日間の自主学習会が実施できたか。	盆前に三日、盆明けに二日の自主学習会を実施した。	A	盆の前後で実施し、自学自習の精神を養う。
				2泊3日以上学習合宿が実施できたか。	1年生・2年生ともに、二泊三日の学習合宿を実施した。	A	引き続き、小松島高校と連携をとりながら学習合宿を実施する。
				「チャレンジタイム」を通じて、家庭学習への連携強化を図ることができたか。	チャレンジタイム実施中の家庭学習時間に増加がみられた。	A	より時間を確保できるようにしたい。
				各学年とも年間2回以上の進路ガイダンスが実施できたか。	6月と3月に学年別・内容別のガイダンスを実施した。	A	よりよいガイダンスプログラム構築のために、関係業者・大学等との連携を深める。
				大学・専門学校等による校外進学ガイダンスへの積極的な参加の呼びかけができたか。	複数回の案内をし、多くの生徒が年間を通じて参加した。	A	紹介するガイダンスの内容を吟味して、選択的に紹介したい。
		キ	補習を利用して中学段階からの基礎学力強化を図ることができたか。	基礎学力の定着をはかるために、各教科で工夫がみられた。	A	より家庭学習の習慣に結びつく形で補習を有効活用する。	
		(6)	a	進路決定率を向上させる。	進路情報誌、学年集会等のあらゆる機会を通しての啓発ができたか。	生徒対象の情報誌の他、保護者や教職員対象の情報を発信できた。	A
	AO入試制度、推薦入試制度の有効活用ができたか。				AOや推薦を利用して国公立大の合格者を輩出した。	A	国公立大のAO制度利用をより充実させる。
	家庭学習の習慣づけを図ることができたか。				一時的な学習時間の向上にとどまった。	C	進路意識の高揚をはかり、家庭学習を定着させる。
	(7)	a	学習方法等についてのホームルーム活動を実施し、学習意欲の向上や進路意識の向上を図る。	学習や進路に関する興味が高まったか。	学年集会やホームルーム活動の中で、進路の現状や今後の行動について理解できた。	A	一時的な成果に終わらないように工夫を重ねる。